

地震を受け、ベネズエラ国民が逆境の中で団結

テレスル 2026 年 6 月 30 日

<https://www.telesurtv.net/pueblo-venezuela-union-adversidad-doblete-sismico/>

迅速に設置された物資集積所、仮設キャンプ、野戦病院では、人々の結束力が際立っている。



市民による取り組みが、この大災害を乗り越えるための努力を支えている(写真:EFE)

ベネズエラを悲しみに包んだ連続地震からほぼ 8 日が経過したが、その痛みは計り知れないものの、人々の対応はそれ以上に力強い。最も被害の甚大な地域では、住宅を含む建物に刻まれた深刻な構造的損傷が、被災者自身がボランティアとなって立ち上がったコムーナ（地域共同体）の強靭さと対照をなしている。

ベネズエラ政府との緊密な連携のもとで行われる市民による組織化や地域社会の結束、そして一般市民による取り組みが、この大災害を乗り越えるための努力を支えている。これは、生存者を受け入れるだけでなく、取り返しのつかない喪

失に直面する人々を、敬意を持って支える、連帯と回復力に満ちた対応である。

その集団の力は、迅速に設置された物資集積所、仮設キャンプ、野戦病院で鮮明に表れている。そこでは、白衣に身を包み、手を差し伸べる専門医、心理学者、精神科医たちが、身体の傷を癒やすだけでなく、息を吹き返そうとする被災者の魂を包み込んでいる。

緊急事態に直面して、連帯が生まれる。

近隣住民による連携は、住民同士が互いに見守る支援のネットワークへと発展した。これは、コムーナの真髓が実践されている姿だ。慢性疾患を抱える隣人が不足している薬を把握し、その手配を行う近所の女性のように、逆境に直面した一人ひとりの福祉を最優先する取り組みが行われている。

国内外の救援隊　さまざまな国からの数十の代表団と、数千人の救助隊員やボランティアで構成される　　が瓦礫の中で活動を続ける中、公式の数字は災害の規模を如実に物語っている。最新の集計によると、死者 1,943 人、負傷者 10,571 人、そして現在、悲しみの中にあっても支援を受けている被災者や影響を受けた人々が数千人に上る。

止まることのない救助活動と並行して、当局はインフラの技術的点検と、不可欠な公共サービスの段階的な復旧を進めている。ラ・グアイラでは電力供給の大部分を復旧させ、絶え間ない余震を受けて徹底的な安全点検を行った後、地下鉄（カラカス・メトロ）の運行を再開した。

都市部では、動揺の中を突き進みながら、日常生活が徐々に回復しつつある。主要な大通りや大通りには、職場に戻る市民の著しい往来が見られ、公共交通機関も運行を再開し、店舗も徐々に営業を再開している。

路上販売の不在や学校活動の予防的休止により、普段の風景とは異なる様相を呈しているものの、ベネズエラの人々は前進するという確信を持って歩みを進め、不確実性を再建に向けた共通の意志へと変えている。

国民的な悲しみの最中、人々が街へ戻る姿には、亡くなった人々への深い敬意と、前へ進もうとする感動的な意志が込められている。こうして、通りには再び、悲しみを引きずりながらも、称賛すべき強さを持ち、それぞれの目的地へ向かう男

女の足音が響き渡っている。

【翻訳チェック 新藤通弘】